

製品名: CCND1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81792**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ICC 1:100-1:500,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	33.7kDa

抗原情報

遺伝子名	CCND1
別名	BCL1; PRAD1; U21B31; D11S287E
遺伝子 ID	595.0
SwissProt ID	P24385
免疫原	大腸菌で発現したヒト CCND1 (AA: 167-295) の精製された組み換え断片。

背景

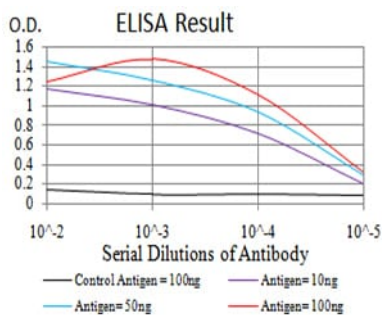
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリ

ンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。このサイクリンは CDK4 または CDK6 と複合体を形成し、その活性が細胞周期の G1/S 遷移に必要なとされる調節サブユニットとして機能する。このタンパク質は腫瘍抑制タンパク質 Rb と相互作用することが示されており、この遺伝子の発現は Rb によって正に制御されている。細胞周期の進行を変化させるこの遺伝子の変異、増幅、過剰発現は、さまざまな腫瘍で頻りに観察されており、腫瘍形成に寄与している可能性がある。

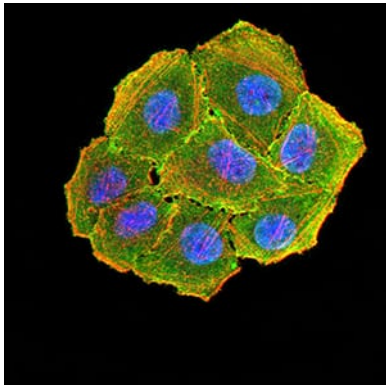
研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路

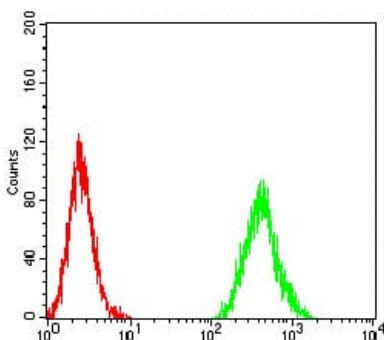
画像データ



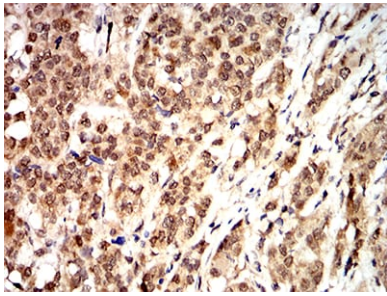
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



CCND1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



CCND1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した MCF-7 細胞のフローサイトメトリー分析。



CCND1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト膀胱癌組織の免疫組織化学分析。